

活動報告

吾妻地域における「リビング・ウィル」の啓発活動と「私の意思表示帳」の作成

Educational activities of “Living Will” and publication of “Living Will note” in Agatsuma region

内田 信之^{*1,2} 橋爪 直紀^{*1,2} 剣 持る 美^{*1,2} 狩野 道子^{*1,2} 荒木 栄子^{*1,3}

Nobuyuki Uchida^{*1,2}, Naoki Hashizume^{*1,2}, Rumi Kenmochi^{*1,2}, Michiko Kanou^{*1,2}, Eiko Araki^{*1,3}

要 旨

「NPO 法人あがつま医療アカデミー」は、群馬県吾妻地域の医療の問題をあらゆる医療者が共有し考えていくことを目的に、2012年7月に設立された。2014年は「リビング・ウィル」を最重要テーマに位置づけ、計32回の研修会を開催、同時に「私の意思表示帳」の作成、さらに「リビング・ウィル」をテーマとしたフォーラムを開催した。今後もこの活動を、地域に密着した形で地道に継続していく予定である。

Keywords : リビング・ウィル (living will), 意思表示帳 (living will note), 地域医療 (community medicine)

はじめに

はじめに

群馬県吾妻郡(吾妻地域)は県の西北に位置する山間部である。面積では県全体の20%を占めるものの、人口については6万人を下回り県全体の3%に満たない。少子高齢化の進行、老々介護の増加、単身世帯の増加、認知症患者の増加、寝たきり患者の増加など、多くの医療上の問題を抱えている。私たちはこのような現状を鑑み、施設の枠に留まることなく、地域の医療の問題をあらゆる医療者が共有し考えていくことを目的に、吾妻郡医師会、吾妻郡歯科医師会を始め、薬剤師会、看護師会、栄養士会などとともに、2012年7月13日に「NPO 法人あがつま医療アカデミー」を設立した(2013年からは理学療法士会も参加)。そして、「認知症」、「歯周病」、「胃ろう」、「ロコモティブ症候群」、「摂食・嚥下障害」、「乳癌」、「大腸癌」などをテーマとしたフォーラム、セミナー、市民公開講座などを開催してきた。これらの問題を取り扱う中で、私たちは健康の時からがんや認知症の末期となり経口摂取ができない状況、意識のない状況に陥る可能性があることを、常に考えていくことが非常に重要な課題であるという認識に至った¹⁾⁻²⁾。そこで2014年は「リビング・ウィル」を最重要テーマに位置づけ、

年間を通してその啓発活動を行ってきた。

目 的

2014年に行った、群馬県吾妻地域における「リビング・ウィル」の啓発活動、「私の意思表示帳」の作成事業、および「リビング・ウィル」をテーマとして開催したフォーラムについて紹介し、今後の地域医療の展望について報告する。

活動内容

1. 「リビング・ウィル」に関する研修会の開催

2014年春より1年間、吾妻地区内で計32回の「リビング・ウィル」の研修会を開催した。研修会の方法は、あらかじめ作成したスライドを使用し著者と共著者が講師となり、20分から30分程度の講演形式とした。講演では決して「リビング・ウィル」を強制することをせず、あくまでも「リビング・ウィル」の啓蒙に重点を置き、自分自身や家族の「生」や「死」について考えるきっかけになることに重点を置いた。実際に研修を受けた方は、吾妻地域の医師会や歯科医師会、薬剤師会、栄養士会などの各医療関係者に加え、保健所や役所などの行政関係者、吾妻郡広域消防本部(救急救命士含む)、吾妻郡老人クラブの会、乳がん患者会、各職場の看護師、看護学生、さらに一般住民の

*1 NPO 法人あがつま医療アカデミー

*2 原町赤十字病院

*3 群馬リハビリテーション病院

著者連絡先: 内田信之 原町赤十字病院 [〒377-0882 群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698]

email : n-uchida@haramachi-jrc.jp

(受付日: 2015年3月30日, 採用日: 2015年6月22日)

方々などで、計611名であった。この研修会の時に行ったアンケートでは70%近くの方より回答をいただき、自分や家族の生死について、あるいは「リビング・ウィル」について考えるきっかけができてよかった、という意見を数多くいただいた。

2. 「私の意思表示帳」の作成

できる限り大きな文字で、難しい漢字を使用せず、誰が読んでも理解できることを目的に作成した。A5版で計14ページの冊子である。内容は、表紙の裏ページに自分の名前や住所、緊急連絡先などのプロフィールを記載(図1)、その後2ページにわたり本人や家族に対してこの冊子の意義についての簡単な説明、さらに3ページ使って人工呼吸器や心臓マッサージ、輸血、点滴、経腸栄養、胃ろうなどの医学用語に対して簡単な説明、そして自分の意志表示を記載するページ、本人が署名するページ、最後に自由記載の部分も4ページ設けた。3000部を作成し、吾妻地区の各医療介護施設に配布した。

3. 「リビング・ウィル」をテーマとしたフォーラムの開催

2014年12月27日に、「リビング・ウィル」をテーマとしたフォーラムを開催した。基調講演の後、吾妻地区の若手医師、救急救命士、老人クラブ理事、牧師の4名をパネリストとするパネルディスカッションを行った。方法はあらかじめ2つの事例を設定し、パネリストがそれぞれの考えを率直に述べてもらう形式とした。年末にもかかわらず約150名の医療関係者や一般住民が参加した。なお、この時期にフォーラムを開催したのは、普段一緒に生活しない家族でも年末年始であれば顔を合わせることが予想され、その時に「リ

ビング・ウィル」を家族の話題になることを期待したことも理由の一つである。

考察および結語

私たちがより良い生を全うするためには、健康な時から自分の終末期のあり方を思いめぐらすことが重要であると考え、。「リビング・ウィル」をテーマとした研修会を開く中で私たちが最も強く感じたことは、医療者だけでなく一般住民の方々も非常に真剣に耳を傾けてくれたことであった。高齢者の家族を持つ人、重病や重い認知症の家族を持つ人、そして自分自身が高齢である人などでは、普段からこの問題を強く認識していると感じたが、若い人たちにとってもこの問題の重要性を漠然と意識している様子であった。そして、この研修会に参加することで、あるいは「私の意思表示帳」を手にする事で、改めてこの問題を深く考え直すきっかけになったのではないかと感じられた。この問題は私たち人間にとって避けては通れない普遍的な課題である。今回の私たちの活動を1年で終わらせてしまえば全く意味のないものになってしまうと思われる。継続すること、そして若い世代にこの問題を意識してもらい引き継いでいってもらうことが重要であると考え、吾妻地域の多くの方々に、自分自身の終末期、あるいは家族の終末期を深く考える機会になるよう、他職種と連携しつつ、地域に密着した活動を今後も地道に継続していく予定である。

なお本研究は、一般社団法人杉浦地域医療振興財団からの助成(第3回杉浦地域医療振興助成)を受け、行われた事業である。また、本論文に関連する著者の利益相反はありません。

—あなたのプロフィールをお書きください—

記入日: 年 月 日

ふりがな							
名前							
生年月日	年	月	日生				
現住所							
電話番号							
血液型	A	B	O	AB	Rh	+	-
緊急連絡先	名前	関係	連絡先				
備考							

-2-

図1 「私の意思表示帳」の表紙とその裏のページ

文 献

- 1) 鈴木裕. PEGの帝王と日本における普及状況. 臨床栄養 2005 ; 106 : 302-309
- 2) 会田薫子. 高齢者の終末期医療—重度要介護高齢者の心肺停止への対応を考える—. 日本臨床 2013 ; 71 : 1089-1094